HQ
1104
J24

May 26
1888
no 111

廿一年五月廿六日發兌 (版權所有)

THE WOMAN'S MAGAZINE.

女學雜誌

東京女學雜誌社

一冊五錢 府内無税 郵税一錢 每土曜出版

第百拾壹號

社説
女學の解

論説
勝手本にかける考案（在獨逸、太田稻造）○家内經濟の大要（木村熊二）

批評
婦人に關する新語と經濟雜誌○植木枝盛氏の賣淫公許禁止論

叢話
極めて冷淡なる貴人○佳人の歎○子供の教育（デフォレスト夫人）○料理鹽梅は身分に隨へ○丈夫なる女○指環考（久松定弘）○百人一首（鈴木弘恭）

小説
小説神髄

佳傳
ガーヒールドの母

寄書
ヲドラム夫人の傳

小供の話

新報

外報

評和堂中川弁刻　　番壹二〇三一、一五

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 111, May 26th, 1888.

EDITORIAL:— Jogaku (The Study of Woman.) Defined.

LEADING ARTICLES:— Thoughts in Kitchen, by Mr. I. Ōta (Concluded); Principles of Hushold Economy: No. IV. by Rev. Mr. Kimura.

CHRITICAL NOTES:— A Reply to Keizaizasshisha's query; Mr. Ueki's "On the Prohibition of Legalized Prostitution."

MISCELLANIES:— An Indifferent Husband; A Belle's Complaint; Children's Training, by Mrs. Deforest; The Healthy woman; Cooking must be Adapted to Different Ceasses of People; Finger Rings (III), by Dr. S. Hisamatsu; Short Converoations on the Hundred Odes by a Hundred Poets (VIII).

NOVELS:— Bouquet of Novels.

BIOGRAPHIES:— Mother of President Garfield; Life of Mrs. Udlum.

CHILDREN'S COLUMN.

CORRESPONDENRES.

GENERAL NEWS.

前號(第百拾號)目次

●社説 日本の女服改良を何如んせん

●論説 勝手本に於ける考案(在獨逸、太田稻造)○家内經濟の大要(木村熊二)

●叢話 離婚防禦の錦嚢策○細君の病氣○八歳の童女父を諫む○江の島及び鎌倉○辨慶と佳人が欲しひ○細君と下婢の行衛○子供私己の衛生○(大澤謙二)百人一首一口話(鈴木弘恭)

●小説 小説神髄

●佳傳 エリヲット女史

●寄書 文二首

●小供の話 賢こき仕立屋

●新報

●外報 (附錄) 萬國婦人大會景况錄

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌 第百拾壹號
明治二十一年五月廿六日發兌

社説

○女學の解、

常に理屈保氣經濟記者は、近來切りと文字論に拘泥し、其雜誌第四百十九號に於て、彼の新日本の喧嘩に騒々しき傍ら、墓なくも亦吾が神聖なる女學社會に侵入し、彼の女學と云へる文字を特の外に奇異なりとして、大相の不審を申せり。故に吾人は、茲に右記者の質問に應答すると同時に、更に、平素尤も言はんと欲する所の者を述べ得るの機會に際したるを喜ぶ。

抑も女學と云へる新文字の解釋に付ては、吾人女學雜誌の記者たる輩らが、殊に進んで、其説明の任に當るの責ありと思はる。何となれば、今を距る五年の昔し、明治十七年六月、吾人同志の者相集つて、初めて斯道の爲に一雜誌を編輯出版するや、之を名づけて女學新誌と云へり。後ち一年、故あつて吾人幾名、女學新誌社の事務員と分離し、別に亦た一雜誌を編輯して、再び世人と相見るに至りたる、即ち是れ當の女學雜誌にてあるなり。而して女學と云へる新文字は、蓋し、明治十七年に起り、明治十七年に於て、蓋し吾人同志者の主唱する處に起り、而して其以來微々たる吾人同志者の盡力に依て、此新文字は殆んど既に輿論の舊知己と爲り、今や一流の博言學士、經濟記者の分析によつて、明治二十一年の文學社會に誰何せられたる迄は、何の故障も無く流行し來りたる處のものあるが故也。

然らは則ち吾人は、先づ敢て女學の二字を解釋して、兼て女學雜誌なるものゝ希望する所を述ぶるの責任あり。蓋し當初、吾人が初めて女學なる新文字を申出し、定めし、窮屈なる漢學者よりは叱られ相なる熟字を製造したると、何さま開闢以來本邦に類なきの學問にして、漢學の本店たる支那國に於ては、尙更以て其例なき一派の學問なるが故に、扨ては止むを得ず大胆にも、斯る調合をば致したるもの也。而して、其意義を最と簡短に述ぶれば、「女學は、即ち「婦女子に關する一科の學問」と云へると也。之を言ひ換ゆれば、其の心身に付て、其過去に付て、其將來に付て、其の權理、地位に付て、及び其の現今に必要する雜多の事物に付て、凡そ女性に關係する凡百の道理を研窮する所の學問なり。吾人は當初斯の如く覺悟して、身を女學に任じたり。今も亦た此の覺悟を存し

て、女學雜誌を編輯せり。將來幾十年、眇々たる吾人同志者が、日本國の姉妹に盡さんと欲する所のものは、即ち亦た只だ此の覺悟を實行するにあるのみ。

然らば何故に、斯る一新派の學問を創立するの必要ありや。曰く、古來女性は、悲しくも樂園の外に追出され、只だ暗黒塲裏に齒がみし、苦歎して、其の聲の明々界に聞取らるゝとの甚だ微かなるが故也。蓋し古來幾多の大學者もありき、又幾多の大政事家もありき、然れども、彼等は多く女性と云へる一人種を勘定の外に置き、之を其の頭腦の材料に用ひず、之を其の權力の權衡に載せず、全く度外視して、殆んど之を顧慮する所なかりき。左れば、希臘の古哲學より、進化主義の新哲學に至るまで、羅馬のカイザルより、近代の英明なるシヤーに至る迄で、多くは是れ、口に男性を見て、心に女性を忘る、即ち彼等が深思熟慮の折柄には、其の水平線上に、男子あるを知つて、佳人の玉姿あるを見ず。左れば、心理學の開くる、其の材料と爲れるは、多く男子の頭腦にてありき。學藝の進む、其の便益を蒙むれるは、多く男子の仲間にてありき。交通の開くる、其の實用を利したるは、多く男子の一流にてありき。事業の擴張したる、其表面に現はれたるは、多く男子ありき。民權の發達したる、其路に當れるは、多く男子なりき。之を以て、學者は彌よ男性に顧みて、學問の方針、多く男子の一邊に偏しぬ、政治家は、彌よ男性に慮かりて、政治の權略、多く男子の一方に僻しぬ。此を以て、女性は大に忘れられて、彌よ大に棄られ、其發達すべかりし心身は、之が爲に發達せず、其の伸長すべかりし權力は、之が爲に伸張せず、而して其の權力の伸張せざるが故に、その心身の發達せざるが故に、亦た彌よ大に忘れられて、更に彌よ大に棄てられんとす、恰も是れ、既に奈落の底に落ち、更に無間地獄に投落さるゝ如くなりき。此に於てか、所謂る女學なるものゝ、尤も必要なるを知る。即ち、女性の心身を解析し、其の天賦の權力を主張し、若し之を教育せば果して何如んの人物と爲り、果して何如んの決果を及ぼすべきやを論定し、而して其教育の方向を定め、預じめ其の決果の方針を導き、或は學問の上に於て、或は人權の上に於て、或は社會的の關係に於て、女性は抑も何如の地にまで至り得べき乎、又何如んの地にまで至らしむべきや。凡そ如此きの道理を研窮して、此女性を彼の冷淡なる學者及び政治家の勘定の内に置かしむるは、一に女學士なるものゝ責任なり。彼の暴君が豪族を見

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

て天下を忘るゝ時は、即ち自由を重んずるの人は、細かに茅屋の民を寫して、之れを彼の勘定の内に入れしめざる可らず、女學士の女學に於ける、亦た大に此に類す。蓋し、隱れたる、埋もれたる、世に知られざる所の佳人をば、導き出して、之を普通一般の進化界內に伴ひ入るゝもの也。而して、何れの國、何の時代を問はず、女性は多く輕蔑され、冷待せられ易きものなるが故に、女學士は、又た何れの國を問はず、何づれの時代を問はず、常に之が代言人と爲り、之が辨護人と爲り、之が敎師と爲り、之が案內者となり、或は之を導き、或は之を引止め、時としては之が建白書捧呈人と爲り、又時としては之が惡まれ者と爲り、即ち之が兄弟と爲り、朋友と爲り、一家族と爲りて、終始其幸福便利を圖る所の者也、經濟記者は云く

女學と云へる文字は餘程新規なり若し女學と云へるものあらば余輩は男學と云へるものありて然るべしと信ず

と、眞に是れ公平至當の見なり。吾人も亦た、尤も之を希望して止まず。若しも此世に女學の存するが如く、別に亦た男學なるもの、存すべき必要ある程の世の中とならば、女學子は實に斯程まで苦勞をば爲さゞるぞよ。抑も女學は、女性が大に忘却さるゝよりして起り來れるものなり。故に其世に存するは、素と不吉の出來事にして、敢て之を希がふべきとにあらず、之れあらん限り、輿論が未だ女性を男子と同等に見ざるを知る、之れあらん限り、世人は未だ女性を万事の勘定內に入れざるを知る。若しも、男女すでに同等に同樣の幸福を受くるの曉きとならば、此の曉天の旭光一閃すると共に、女學を存するの必要は、忽焉として霧散すべし。故に、其の自由なると記者の如く、其の理屈保氣と記者の如く、眼界男もなく女もなく博士もなく貴族もなき、記者の如き人物の多からんとき、女學なる新派の一科學は、則ち最早や無用となるべし。而して今も、記者の注意せらるゝが如く、別に男學を設くる程の時勢と爲らば、是れ即ち男學女學混同等和して、一個の人類學と爲るの日なり。吾人は此の黃金世界に達せんとを切望し、更に又た、吾人は、女學の後に男學を起す程の大名譽を得んとを切望す。然し、此等の希望は、今の所ろ全く空想として、先づ以て寂滅に附了するの外なきを憾らむ。

果して然らば、新日本漸く熟せんとするの日、先づ謂ふ所の女學なるものゝ必要せらるゝは、眞に明白ならん。吾人同志

者、不肖と雖ども、此の一科學の新に日本國に需要せらるゝの當初より、終始之に同伴して、今日に至るを得たるは、天の恩助の洪大なるものと云ふべし。但だ殘念なるは、女學の二字、世人の之を見解すると甚はだ狹く、中には只だ、之を「女子の學問」即ち「女子の敎育」と云へる意義をのみ指示すと思はるゝものありと覺ゆ。女學よ、汝ぢ未だ大に世人の恩顧を受るに至らざるか、然れども、女子敎育の今日の如く隆盛となれるものは、即ち汝ぢ女學の勢力の大に增加したるものなり、汝亦喜こんで之を謝せざるべからず。然れども、吾人は、汝の爲に只だ女學校の多く出來るのみを喜はず、又女學生の數が多くなるのみを喜ばず、實に汝ぢの智識、汝ぢの窮理、汝ぢの勢力の、大に增加して、以て滔々たる彼の女學校女學生に一定の案內を授くるに至んことを望むもの也。

然れども、世上に於て、女學は只だ「女子敎育の事」なりと覺悟せらるゝとも、夫れ果た何の害かあらん。吾人が大切に思ふものは、彼名目にあらず、符調にあらず、其の精髓に於て、實に女學なるものゝ大に進步せんことを希ふこと也。見よ、女子高等敎育の可否は、西國に於て尙ほ大議論ある所にあらずや。女子政權授與の可否は、西國に於て現に大議論ある處にあらずや。抑も女子に產を授くるは、之を何如にすべき、女子の職業には、果して如何の者が尤も適當したる。女性に關するの法律は、抑も如何程迄に改正すべき。家政內治の有樣は、抑も如何程に改良すべき。更らに立登つて之を考ふる時、男女兩性の相違は、今果して如何ん、此の相違は、如何にして來り、如何んに成り行かしむべきか。凡そ如此きものは、即ち當に女學子が熱心に研究を果すべき處にして、吾人同志者の期定する所、實に此に在り、女學雜誌の責任とする所、實に此に在る也。故に、舞踏は鹿鳴館に盛んなり、交際會は所々に起れり、洋服も、靴も、コーセットも、握手も、キッスも、エンゲージメントも、ハチームーンも、今や追々と日本國內に流行せり。吾人は此の流行の波濤內にもみ出さるゝものにあらずして、其岸頭に立つて之を測量すべきものなり。食卓上に面白きお談を爲し、貴婦人を巧みに笑はせ奉つり、所々の婦人會員に親睦を篤ふし、交際場裏一種の王と爲るは、文明才子の身に取て、隨分に面白きことなり。然れども、吾人は、此の如き多忙界に推出さるゝものにあらずして、女學社の樓上に沈思默考すべきもの也。只だ夫れ、女學は女性が世に忘却さるゝの必要よりして起る。故に、女學子は

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

、亦た冷々黙々たる一個の哲學士の如くにては成らず、機に臨んで天下の注意を惹き、頑々たる男子、及び堂々たる學者政事家をして、深く女學子の言ふ所に注意せしめざるべからず。於是乎、女學雜誌の任甚だ重きを知る。女學雜誌よ、汝ぢは讀者を笑ハさずともよろし、讀者のお慰みに爲らずとも宜し、婦人方にチンチコ歌を歌ハざるとも宜し、時としては警視廳よりお叱りを蒙り、時としては内務大臣より停止を仰せ付けらるゝとも、汝ぢ敢て心配する勿れ。汝ぢの義務は、日本の姉妹の爲に、其眞正の事情を表白し、其正當の權理を代言し、無禮なる男子を筆誅し、淫れたる女原を退去し、流行の風吹荒るゝとき、端然として極善の方向を指さし、朝にも、夕にも、今も、後も、終始渝るとなくして、理想佳人の燈臺となるに在らずや。左らば、女學子も、女學雜誌も、希ハくは數千の女學雜誌の讀者も、今や女學と云へるものゝ爲には、大に犧牲にする所なくんばあるべからざる也。

論説

○勝手向に於ける考案(二)

在獨逸學士　太田稻造

さて勝手本の疑問中には調理法の事のみならず奴婢の事も籠つて居り升。合衆國などには此疑問は容易あらぬ論題となり奴婢の一揆を起した例も御座ります。英國に於ても矢張此議論が盛んで有志の婦人は奴婢の有様を改良せんとして計畫の最中で御座ります。獨乙では七十二年前の統計表に依りますと全國婦人の人口の五分の十人は奴婢の職掌に從事して居りましたが二十七年前の統計表に依りますれば只百分の十三にあつて居り升。日本に於きましては此事はまだ世間の論となつて居りませんが製造が盛大になつて婦女子が製造場で好い給料を得るやうにありましたら俸公住をする事よりは手に手に職業を採る事の方を望やうになりませう。最早大坂や神戸にてはマッチやハンケチの製造場へ餘程婦人が這入つて居ると心得升が如何で御座り升か。加之むかしの封建時代で御体公といふた様なものは速かに消失せる有様で御座ります。また豐年が續けば奴婢は必ず數を減ずるもので昨年東京の新聞紙で奴婢を求めるものがこれを得られぬとか見えて居り升た。二百九十年前にヘッセン國にては七年間凶作が續きました時作人を雇ふとの出來ないとて貴族たちや僧侶は余儀なく自身に耕作したと申す事が御座り升。

下婢が規則方正の家に体公住して居る間は行儀作法の見覺を

する至つて好い極會であるといふ事を一家の細君たるものハ常に記臆せねばなりません。歐米に於ての最も讃賞すべき風俗のひとつハ一日の間に朝か夕暮かに一家族奴婢も子供もとも〳〵に打集ひて聖書一章讀みきかせ聖歌一節を吟ずる事で御座ります。

これは最も些細なる事の樣なれども敎育上交際上德義上に甚だ有益なるもので御座ります。さてかやうなる事を日本の家族にも致し始めましたらば余程一家內の幸福を增加いたしませうと存じ升。もし家族がキリスト信徒でないならば或は高尙なる傳記樣のものとか道德生理の容易なる課程書とかまたハ八犬傳夢想兵衛の類でも宜敷う御座りませう。

細君たるものハまた下婢どもに大切な世渡りの心得を敎へねばならぬものでたゞに勝手むき計の事でなく凡そ知り得て將來に利益あらふといふやうな事を敎らるれば下婢一生の間にいか計の德のあるとも知れぬといふ事を考へられ度ふ御座り升。細君が心得あつて時間の都合をさへすれば夜勝手本をかたづけておさんどもが余り睡けつかぬうちに少しづゝ讀書や算術また將來內職になりそうな何にか手輕な仕事を敎へられませう。若しかやうに致され升たら下婢のみならず細君にも利益が御座りませう。なぜと申せば己の知つて居る事を人に敎ふる程樂しみて高尙に自分の才能を發達するものは御座りません。

奴婢を敎育するとも緊要ですが折々の歡樂を與ふる事も亦致さねばなりません歐米にてハ日曜日の夜と時々ハ水曜日の午後ハ奴婢たちに暇を與へます。尤も宗敎心の盛んでない處にはかく夜中自由を與へ升事ハ却つて宜ろ敷御座りません故に歐米の都會の公園、市街、茶屋などに遊んで醜き狀態を見る事が御座り升。下婢どもに有害な集會も避させ適宜な歡樂を得させ嚴重な細君の眼を離れて自由を得させやうが爲に歐米には宗敎家の管轄に係る設立けが御座り升て下婢たちが行て或は演說や音樂を聞きまたハ書物を讀んで畫を見害なき遊戯を致す事などの出來るやうになり居り升。

英國の諺語に慈善ハ一家內に始むと申す事が御座り升が私が切に懇望いたす事ハ慈善會に御熱心の貴婦人方が直ぐお手本の慈善の業をお忘れのないとで御座り升。敎育に御熱心の御婦人方ハ先づお手本のお奴婢より御敎育をお初めなさいまし道在邇而求諸遠事在易而求諸難と申事が御座り升。

私の愚考にハお奴婢をお仕着なさる事に付てハ日本の御婦人

は歐米の婦人よりも餘程責任が多くあり亦致し易く御座り升。なぜと申せば合衆國などにハ奴婢は細君と幾んど同等の權を主張いたす事から見升れば日本のはまだ餘程素直で柔順う御座り升。それのみあらず合衆國では一週間幾許といふので奴婢を傭ひ獨逸では半年づゝで傭ひ升が日本ではまだ一年のきめで御座り升から細君と下婢との間が親密になる充分の猶豫が御座り升。

日本ばかりでなく歐洲にもまだ奴婢を矢張奴隷視いたす風の遁かぬ樣で御座り升其證據に奴婢の狀態の事を申すものは御座り升が奴婢との約定を彼是と論じるものを聞ませんと申すものは此身分の者の權利を賤めるからで御座り升。既に下婢と申せば男子が此を侮辱して何とも思はず婦人を非道の取扱ひをして慈悲を垂れぬといふ事はいかにも嘆ずべき事で御座り升。デ、クヰンセがさる客人と食事致して居る間だに客人がスコットランドの事に付て何か惡樣に申した時給事して居た下婢が同國の出生だといふて其言葉を止めて「私は私の爲にさまざまの用事をして吳れる可憐そうなものどもを不愉快にするに忍びません」といふた美談が御座り升。これは「汝らのいと小さきものに爲せしは我に爲せし也」と云ふ聖語に甚だよく適ふて居り升。

もう一言して終りませう私は女兒改良に三の階梯があると思ひ升第一を庖廚第二を客室第三を演壇と致します語を變れば第一は家内に於てし次に社會に於てし次に政事に於てするので御座り升。第三の階梯に迄進歩いたし升したはたゞ合衆國婦人のみで御座り升。日本は第一階に在りて第二に進まんといたして居り升。わが國の婦人を強いて第二に急ぎ入れる事は宜敷御座りません。社會上に婦人の己の位置を進むるにはまづ寛やかに實着に計られるとが得策と考へられ升から先づ第一に勝手本の事務を賢く理に從ふて取計らはれる事を切に願ひ升。

○家内經濟の大要（廿四）

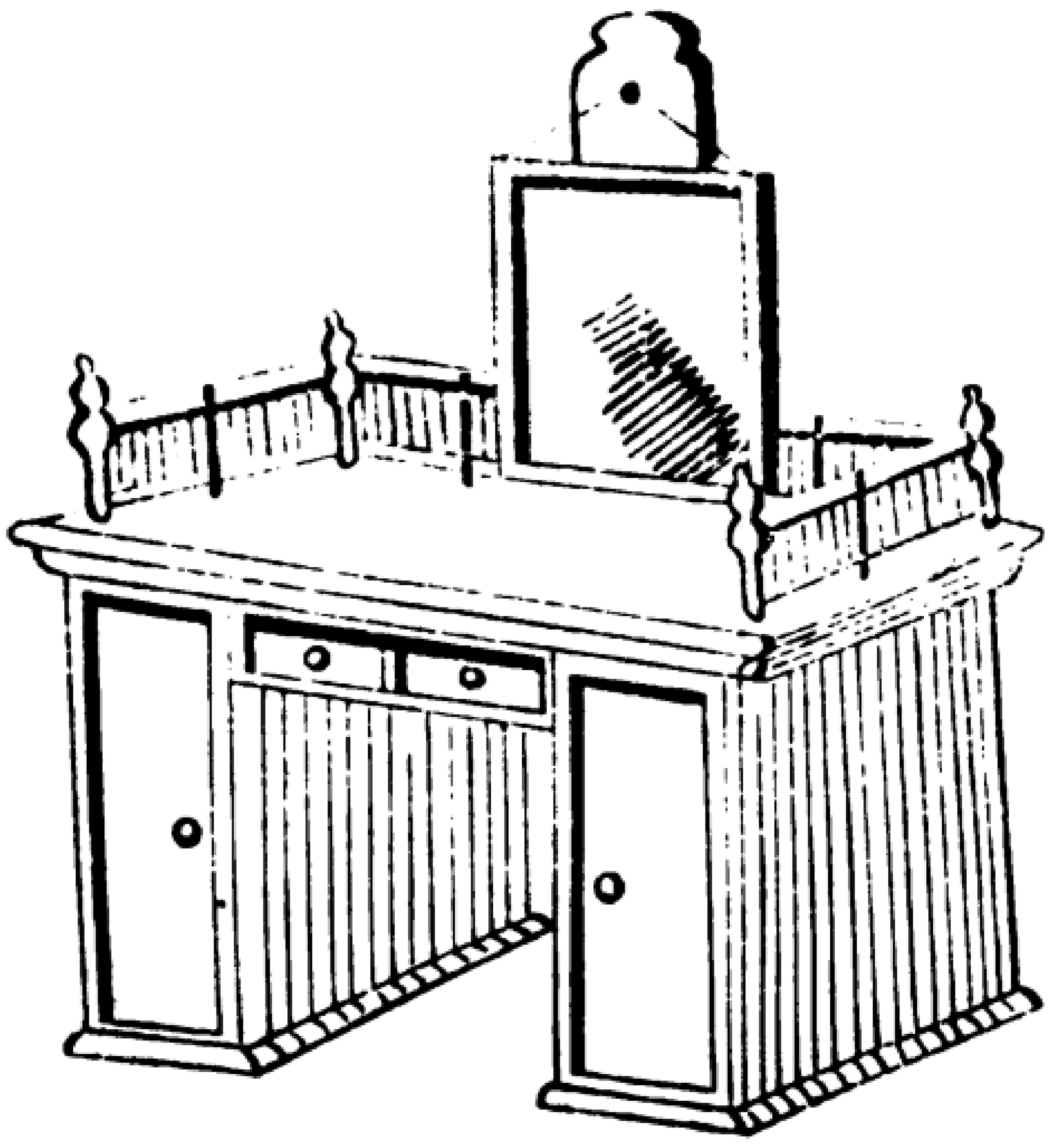
木村熊二

男女ともに起臥の時刻を定めぬは習慣の然らしむる所なれど經濟上に大なる關係を及すものなり浮世は夢の如し燭を秉りて夜遊べと古の人は言へ空談に夜を更らし茶を飲み菓子を食して十二時過に床に入り一瞬間に夜も明ぬれば細君は漸く眼を拭ひまだ宵ながらと呟言つゝ起出てれんじ窓の障子細目に引開て朝陽已昇とて急ぎ衣を更て漱碗よかな盥シャボンは何處手拭と漸く之を整頓れば主人は睡さを忍んで床を出まづ寢

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

衣に薄羽織をかさね香こぼるゝ梅花香色ほんのりと染つきし楊枝を口にくはへつゝ茫然として椽頭に佇立ば釣瓶とりにし牽牛花も三竿の日にうちしほれ煎豆賣り行く商も今朝は最早經過きぬ叫々遲かりし寐過たりとて急ひで顔を洗ひ朝餐を促せば下婢はすわやとたすきがけ澁き顔をば團扇に讓りて火ちりんも飛べと計りに扇ぎたてたり細君さすが從容に通紅爐底の火を撥き出し烏炭を添へて鐵瓶を候ひ湯も巳に冷ましたと歎息す夜は十時に床に入り朝は六時に臥房を出で七時半八時には家内一同打揃ひ朝餐を終れば特別に火を燃して羹を温め茶を煎るの煩勞なく主人は事業を取るにも都合よく細君は家内の務めに從事し下婢も庖厨の仕事を終へて雜巾を綴るほどの餘暇はあるべし左れば薪炭油のみか茶菓までも餘計の入費を省きて家内の事務も全く整頓すべきなり眠食運動は人世一日も欠く可からざるものなれど夫さへ充分ならざれば如何でか快樂を占るを得んや西洋人の臥室には百事意を用ひ殊に臥臺などに金錢を費すは夜間十分に安眠せんと欲すればなり今特別に注意を爲すべきは起臥の時間と夜具蒲團にあり敷蒲團の上又は必す白き木綿を布き夜着を用ゆる家にては單衣の巾廣きものを其の裏面に縫付置べし蒲團の容易に穢るゝ患なく且つ毎週之を洗浣せば衛生上に裨益少なからず又寢室に洗漱器を置き床を出るやいなや口を漱ぎ手拭にて身躰をよく拭ひ衣を更めて其の室を出れば精神も爽快にして寢衣のまゝを人に見らるゝの不躰裁はなかるべし寢室なき家にても洗漱器を椽側の隅に置けば大に便利よきものなり洗漱器には手拭楊枝等を具へ置くべし。

洗漱器の圖



來賓を客房に請じて其の退屈をも顧みざるは甚あしき習慣なり西洋人の客房には中央に机を置きて歐書詩集奇物珍器を排列し見る人をして其の目を喜ばしめ十分二十分房中にあるも倦怠を覺るに至らずといへども一幅の懸物一瓶の花の外に賞

翫すべきものなき淡薄なる裝置の客房に渭濱に釣を垂たる太公望橋下に首を長くして居たる微生もさこそと思ひやらるゝまで待託れど主人は出來ず烟草盆も前になければ灰吹より蛇の出るを見て不平を慰したり茶烟輕く颺る落花の風とてすましこんだる禪榻の畔の樂隱居は一時間も二時間も烟を詠めて消遣するを厭ねど走馬燈の誚の如く東地西奔して社會の事に鞅掌する人々は先づ氣長に待れよとて客房に茶烟草盆の饗應は實に難義を感するものなり茶烟草盆を出すとを廢し一寸にても主人は迎接するを善とす若し多端なれば他日を期して別るへし客茶を乞ふものあれば之を出し乞ざれば其の意に任せ置べきなり或る家にては埋火に麥湯を煎し置きて客の求めに應して砂糖を添へて出すものあり夫は茶加非を新に煎して供するよりは大に煩を省き經濟上に益ある習慣といふべし。

庖厨にて注意すべきものは竈なり西洋風の鐵爐は麵麭をやき肉を焼るには都合よけれど米を炊き汁を温むるには改良竈とて當時行るゝ煉化にて造りたるをよしとす夫は薪を燃す事甚少くして鍋と釜とを一時に沸騰せしむへければなり米を炊くには湯を沸騰して後米を投し重くして空隙のなき蓋を掩ひ釜内の蒸氣兩三度外部よ發するを待て薪火を去り殘火の消るまで其の儘に置へし十五分間にて全く炊き得へし。

我か邦にては四季ともに野に菜色あり鮮魚は常に絶る間なく魚市にあり鳥獸の肉も價廉にして味美なり食物の材料を調達するに甚便利なる所なれば管家者の少しの注意と調理法宜を得るとによりて微少の金錢を擲ちて健康なる味美き食物を食卓に備ることを得へし邦人は食卓には節倹を旨として他に冗費あることを顧さるものあり今試に其一例を擧んよ或る家にては朝は味噌汁に香の物輕少の山肴野菜と飯を具へ午餐には鮮魚野菜を添へ午後三時頃には茶菓を供し晩餐には野菜と少しの肉などを具るを常とす今この食料を分析するに其滋養たるへき分子は甚だ少くして十分に躰を養ふに足らす故に直に不足を覺へて歳は豐かにして兒童は飢に啼きて食を求むると往時野蠻の世に彷彿たり菓子を食し茶を啜るは定時なく鰻店を經過して其芳香を渙み蕎麥店を窺ひては直に進入せんとするの念を起したり如斯三餐の外に費す所金錢は極て多し若之を愼みて朝は一杯の綠茶に牛乳と砂糖を和し鷄卵一箇冷肉と飯とを具へ晝は鮮魚と油にて煎りたる野菜或は冷肉を作りたる時貯へたるソップ或は馬鈴薯を加へ夕は野菜果實の煮たるもの菓子茶を具れは食卓上の入費は許多の差なくして滋養

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

の分子も多く身躰に益あるとを覺ゆべし　（未完）

ソロン子を失つて歎ず、其の歎ずるの徒勞なるが故に猶よ歎ず。東門吳其子死して憂ひず、日く吾常に子なし、子無きの時憂ひざりき、今ま子死す、乃ち嚮きに子なきと同じ、何すれぞ憂ひんと。二條院讃岐、誕生の日は慟哭して泣く、云く此日母の尤も苦しみ玉へるの日なりと。或人母の命日、佛前に三味線を彈じて快よげに歌ふ、云く母は其子の樂しむを喜ぶと。

批評

○植木枝盛君の賣淫公許禁止論

高知縣會に賣淫公許禁止の建議案を呈出されたる女學の爲めに尤も敬愛すべき植木枝盛君は國民之友第二十號及び第二十二號の兩號に於て堂々數萬言を重ね層一層に論じ詰め遂に賣淫公許の事を左の如くに論決されぬ

第一　賣淫を公許するとが社會一般に對して淫風を防制する便道と爲らざる事

第二　黴毒檢査の一事より之を見るも決して公許の是なるを告げざる事

第三　娼妓と爲る者の身の上より考ふるも公許に由りて賣淫を爲すとの甚だ可なるに非ざる事

第四　政事社會の躰面より之を云ふも其社會に賣淫を公認するの頗ぶる面目に害ある事

第五　公許と秘密との上より觀察するも更らに公許が秘密より可なりとの理由なき事

議論明快周到殆んど余ます所ろなし滔々たる姦淫世界に如此き公明有爲の論者を得たり吾人は尤も奉謝尤も慶賀の極にたえざるもの也

因に云ふ。國民之友一冊定價六錢東京赤坂榎坂町五番地民友社發行なり讀者幸に右の兩號を購讀あれ。

○婦人に關する新語と經濟雜誌

經濟雜誌第四百十九號「婦人に關する新語」の條に云く

新日本と云へる文字と同樣に奇妙なる新語は婦人に關する諸論に見ゆるなり婦人改良、婦人獎勵、婦人製造(まだ製造と云ふ字は無かつたが)など云へる文字是なりそも婦人を改良し婦人を獎勵すと云ふが如きは全く先頃各府縣下に行はれたる生糸改良物産獎勵など云へる文字に淵源するものにして稍々婦人を以て生糸若くは物産と同視したるに均し「男女同權ならざる可らず」「男尊女卑とは何ぞや」など云ひながら婦人を以て生糸や物産の如き無生物と同視して議論するとは甚はだ驚き入りたる議論ならずや

別段驚くには及ばず其文字は抑も何より淵源し來るともソンナとには頓着す可らず、人種改良、人心改良なとは生物中の生物に就て云ふと也又天子百官に君臨して朕之を獎勵すなどは開化史にても注意する人の毎度見る所ならん

經濟記者亦引繼ひて云く

又た女學と云へるも甚はだ奇異なり余輩は敢て學と云へる文字の眞正の字義を援出して玆に議論せず日本にては是まで漢學州學英學佛學など云へる場合にも此の文字を用ひたれば學と云へる文字は隨分不定のものなるとは余輩も之を許すなり然れども女學と云へる文字は余程新規なり若し女學と云へるものあらば

余輩は男學と云へるものありて然るべしと信ず其れのみならず青年學老人學老婆學なども有べき筈なりと信ず世間何んぞ老婆學を起こすの人なきや

勿論需要あらばドウカ起して貰らひたきもの也但し凡そ新に一派の學問を開かんと欲せば必らずや彼の靈氣學の開祖の如くならざる可らず即はち大胆に、無頓着に、且つ滅法界ならざる可らずと爾か云ふ。

叢話

○極めて冷淡なる良人

フレデリック、モレルと云へるは、余程學問が好きにて、之が爲めには萬事を抛うちたりとぞ。嘗つて一文章を作らんとして在る時、突然人來りて云く、細君最早御危篤で御座る、彼れ筆を擱かず。再び人來つて惶てゝ云く、只今お失ありなされました、モレル冷々として答へて云く、夫れは不憫なとで、アレは余程好い婦人でした "I am very Sorry; She was a good woman."

○佳人の歎

胡蝶は樂し氣に遊び戯むれ、百花は笑つてお互ひに語り合へり、日光は數万億里の天上よりわざ〳〵降つて、彼の冷やかなる土を温ため、空氣は最と温和にして、自由に鳥の翼に抱かる、人は浮立ちて、顔ばせ皆喜ばしく、犬も快よげに躍りて、明日の事を思はず。初夏快晴の日、佳人庭に出でゝ徘徊し、薔薇樹下に佇んで泣て曰く、嗚呼汝ちは此の暖候に會ひて自から花を開けるか、何んぞ其の樂しきぞや。嘗て汝ちが蕾みなりしとき、汝を被ふ所ろの緑葉を剝ぎ、汝ちが隱くす所のベールを脫がせ、强いて汝ぢをして笑わしめたるものなき乎。汝ぢ初めて笑わんとするとき、一と度び瓣を開ひて、愧ぢて又た閉ぢ、日光に温められて、復た大胆に開き初め、一瓣又一葉、つゐに今の如く全く開きたるなる乎。今ま汝ちは、誰れの爲に示し、誰れの爲に香ひ、誰れの爲に笑ふか、左れど此は妾が知らざるのみ、必らず其的あらん。妾は嘗て愛を知らざりき、只だ郎の爲に愛を敎へられぬ、妾は愛の苦るしきを知らざりき、只だ郎を愛するによりて之を知りぬ、今すでに滿腔に愛花を開らけり、復た閉づべきにあらず、而して之を觀て賞し、之を嗅いて香ひありとし、之に接して妾の笑ひに應ずるの人何處にありや。知らず、薔薇を取つて地上に擲うつ、嗚呼郎何んぞ冷淡なる。

○子供の教育

デフホレスト夫人　述
山田邦三郎　録

右は若松婦人矯風會に於いてデフオレスト夫人が演述ありたるものゝ筆記也。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

貴國では近頃まで婦人はいと價直のあきもの丶如く申されましたが、今では追々日本人の考へも變り、婦人は最も大切なるものと申す樣にありまして、婦人の風習も追々變つて參りました。婦人は子供を敎育し、家を治め、夫を助け慰める職分がありますから、婦人の良否は國家の興敗に大なる關係がござります。婦人が良ければ、其國は必ず盛になります、婦人が悪しければ其國は必ず衰へます、其故、今申しました婦人の三の職分の中、子供を敎育することについて少し御話し申しましよう。

其一、母先づ正しかるべき事。

子供は今は子供であつても、後には成人となつて、國の基、家の柱となる者ですから、幼少の時からよく、敎育するのは、最も大切でござります。而して子供を敎育することは、最も婦人に適當してをります。御覽あさい、子供が傷でもするか、又何か困みのある時に慰められ樣として行く所は、誰ですか母親の所です。又子供の事を詳に知るものは、其母親でござります。其他、母親の性質から考へても、母親は子供の敎育により適して居ることが知れます。そこで、子供を敎育するに、第一の必要は、母親自身が善良の婦人とならなければなりません。子供は其見聞する所の事は、直きに眞似をします、別て前申す如く、親しくある所の母親の事は尙更の事ですから、母親は、自分の行爲には、余程氣を付けねばありません。

其二、善き習慣を付くる事

次に必要ある事は、幼少の時から、善良の習慣を付ける事です。先づ子供に乳を飲ませる、時間を定むるがよろしい。生れてから二ケ月程の間は、二時間毎に飲ませ其より段々と、十五分位づ丶時間を延して、終には三時間毎に飲せる樣にして、朝六時に飲ませ、九時に飲せ、行水をさせ、暫時眠らせるがよい。午后も、定めたる時に乳を飲せて、暫時眠らせ、夕六時に飲ませて臥床にて翌朝まで寢さするとよろしい。又眠らせる時は、起してはなりませぬ。若し時間を定めず、何時でも無暗に乳を飲ませては、子供の胃を傷めます、子供の胃は、成人のよりは餘程弱くありますから、胃の働きを休める時が、成人より大切でござります。子供が下で氣嫌よく遊んで居る時には、强て抱上げないで、其儘にしてをくがよろしい。子供が成長してからも、三度の食事の外に、餘り食物を與へてはなりませぬ。朝飯から午飯までの間に、一度は菓子

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

を與へてもよろしい、併し餘り砂糖の入らないのがよい。
夜寢るにも時間を定めなければなりません。先づ六七才迄は五時か六時迄に寢させ、十二三才迄は、七時頃に寢させるとよろしい。決して母親の寢る時迄、起して居てはなりませぬ。子供は、成人より、餘程に寢なければなりませぬ。諺にも、よく寢る子は丈夫だと申します、よく寢ませぬと、肉躰が弱くなり、又氣が短かくなつて、怒り易くなります。又母親の爲にもなります、朝早くから夜寢る時迄、子供が母親に付廻りて困められましては、母親の體もつゞくものでありません、其上に、母親が自分の用事をしたり、讀書することも出來ません、併し早く寢させますると、後で讀書をしたり、手紙を書たり、其他自分の用事もでき、躰も休まります、又寢さす時に、小供の眠り付く迄、側に付て居なければならぬ樣な慣をつけてはいけません、臥床に入れてやれば、後は獨りで眠る樣にしなければなりません。空氣はよく流通する樣にせなければなりません、人間の一度呼吸した空氣が、二度人間の肺に入ては、毒ですから、呼吸した空氣と、新しき空氣と、交代する樣にするが必要です。又夜通しあかしを燈てをいてはなりません、眼は光のある所より、暗がりの方がよく休まります、其上、光は空氣を害し、惡き香が致して、肉躰のために惡くあります。(未完)

○戒指考（其三）

久松定弘

抑々婚姻戒指の交換は所謂拘忌家の迷信に關すること多しと雖ども普く歐州に行はるゝものなり獨逸の琴曲にも「彼女貞操を破れり戒指は既に破裂したり」といふ一句あり魯西亞國の歌にも「妾若他人を慕ひなば黄金の戒指も破裂せん、汝も他家の處女を愛しなば金剛石は戒指より墜ん」と云へり。

チロル及びヘッセンの近傍にては結婚のとき交換したる戒指の破損する事あれば夫婦の中孰れか壹人はかならず死すべしといひ又結婚の際新婦ろの戒指をとり落すことあれば其夫婦はかならず不和なるべしと云へり。

右のごとき俗説は北獨逸國のみならず既に歐羅巴一般に廣まり英國の或地方の如きは今日にいたるも倘婚禮の戒指を損ずるときは其妻たる者は遠からずして孀婦とならんと信ずるもの多し。

今を距る十年許前の事とか英國のエッセックス地にて一人の男子暴殺せられたることありけり其時妻の某は人に告て曰く妾は過る頃より遠からず所天の死せんとを知れり其故いかにと

いふに逸る日妾が婚姻の際取かはしたる戒指を損したり妾が妹も曾て戒指を損したることありしが幾程もなく其夫を失へり戒指の損するはこれ夫をうしなふ慥なる前表なりと魯西亞にては一種の慣例ありて結婚の際取かはしたる戒指を驟雨のとき器中に置きこれに雨水を受くることあり。

魯國のリエザン縣にては戒指の孔より注ぎたる水は人の疾病を醫するの効ありと云ひ又或地方の習俗にては新婦は新郎に戒指を入れたる酒盃にて葡萄酒を飲ましむる事あり又歐羅巴、魯西亞の俗曲に戒指の事をいへるものあり這は太古より傳はりしものなりとぞ「那處に一個の鍛冶あり彼は工塲より來れり、那鍛冶は三箇の鎚を持てり、鍛冶よ儂に一箇の冠を作れ、鍛冶よ新たに金冠を造れ、鍛冶よ黃金に餘あらばそれにて金の戒指を作れ、又その屑にて金鍼を作れ、儂はろの金冠以て婚姻の契約せん、その戒指以て結婚せん、又彼鍼以て結婚式の衣服を縫はん」と。

獨逸及英佛の地方にては眼胝に偷鍼痣の發生しとき婚姻契約の際よ交換したる戒指にて擦ればその効神のごとしといへり但獨逸にては三回英國にては九回無言にて擦るべしとせり。

又獨逸にては婚姻せんとするもの貧困にして黃金の戒指を購求する能はざるときは銀の戒指をもちひ又これをも購求する能はざるものは男女たがひにいさゝかの貨幣を交換して戒指の代になすものあり。

アイルランド國には結婚の際黃金の戒指を用ひざれば其効驗なしとの說ありて農民は皆これを信ぜり故に些少の報酬を受て金環を他人に貸與ふるものも尠からず又或地方にては市里の住民共同して黃金の戒指を購ひ平日はこれを僧侶に保管せしめ其市内に結婚する者あるときは何人にもこれを貸與へその婚儀に使用するを得せしむといふ。

又英國及び亞米利加合衆國にては婚禮のとき婚禮菓子なるものを儀式に欠くべからざるものとせり蓋しこの菓子も戒指と同樣にまつたく拘忌家の慣例に出でたるものなるべし。

英國の北部及び亞米利加のミシシツピー及オハヨ州にては婚禮菓子をもて將來の吉凶を卜するの風習あり其方法如何といふに先菓子を細片に截りこれを結婚のとき用ひたる戒指の孔にとほすこと九回にして後、來客の中にていまだ結婚せざる者あればこれに件の菓子を與ふこれを受取りたる客は携歸りて寢に就くときこれを枕の下に入れ置けば其夜の夢におのれの愛慕する女子又は將來夫となるべき男子に出會するを得

べしといへり。(未完)

○料理塩梅は身分に隨ふ

支那人の燕巢は、吾等の口に頓と甘まからず、西洋料理の極上味も、田舍人の口には適せず、塩梅は兎角、之を食ぶるの人に依りて相違すべし、此邊の覺悟、細君に於ては尤も大切の心得ならん」昔し三好長慶が料理人、坪内某と云ふもの、信長の手に生捕られて後ち年月を經、賄頭市原五右衛門より伺ひ出づるよう、囚人坪内事は、流石、三好家の料理人にて、鶴鯉の庖丁はもとより、七五三饗の膳なにごとも法式知らざるとなし、何卒囚人御兇遊ばされ、御料理人に召加へられたくと申上れば、信長公、左らば試みに今宵の料理申付けよとの御意により、其晩の御料理、坪内自から調味して御膳を上ぐ、然るに其料理御意に叶はず以ての外の御怒あり、坪内承わり恐れ入て何とぞ今一度仰付られ下さるべし、其上御意に叶わざるとあらば、如何ようにも御成敗下さるべしと申す、此由更めて言上するに、其通り仰付らる、坪内又謹んで調味し奉つる處ろ、其塩梅魚鳥の取合せ、こと〴〵く、御意に叶ひ、信長公御機嫌直り、實に天晴れの料理かなと、大に褒稱して更に召出し、祿を賜ふ、後に坪内密かに人に申しけるは、初めの料理は三好家の塩梅にて、後に御意に入たるは第三番通りの塩梅に仕立てたり、三好家は足利の御風儀にならひ、万づに上向なる家風にて、料理などに風流の事のみなり、第三番の料理と云ふは、遙かに下劣にて、田舍仕立の塩梅が却つて御意に入りたりとて、大笑らひに成りしよし。兎角料理塩梅は、身分に隨はねば成らぬなり。

○丈夫なる女

女は何卒丈夫であつて欲しいです、特に今の如く、人間が段々と弱はく爲る時代に在つては、尚更ら丈夫なる女が欲しいです。五六年前の事で、西洋の或る統計學者が古來のシャップを計りました相です、スルト不思議なるは、シャップの大きさが年々に小さく成り、毎年の流行りの形は、年々一二分づゝ、直徑が短く成つたとを發明しました。ソコデ學者は之が説明を下して、是はザンギリを短かく摘とが流行り出たので、人の頭まが小く成た譯でもないと申た。然し吾人の考へでは、之は必らず人間の頭まが、段々と小く成り行くのに相違ないと信じます。先づ早い例しが、今の相撲取は、昔しの相撲取よりも余程小さいです、吾々は、吾々の父さんよりも、又吾々のお祖父さんよりも、餘程小さいです、昔は五尺八寸の大

刀を異向に揮つた人もあつた、然し私しの友人などは、此の大刀よりも丈が低くゝて、悲しくも徴兵を免れた譯で、此類の話しは幾らもあるとです。先達て江の島へ参りまするとゝ北條時代の面がありましたが、其顔の大きさは、吾々の二倍もありました、然し之は珍らしくないとて、集古十種と云ふ書物を見ると、大層な面や、莫大な兜の圖が、澤山にあります。嘗て之を計つて見ましたが、何うしても今の人よりは、顔が竪横に一二寸も大きく、頭の直徑も亦た大丈夫一寸五分位ひは長い樣です。斯の如く人間は追々と小さくなるもので此分で推して行けば、二十六七世紀の頃ろには、吾々日本人は、是非とも一寸坊主とならねばならぬと思はれ、眞に慷慨悲憤切歯扼腕の至りであります。左樣ならば、之を今から豫防して、例令ひ古人よりも大きくは成れずとも、切ては古人だけに大きくなりたい、然し若し其願ひが適はぬとあらば、躰はよし小さくとも、どうか古人ほどに丈夫でありたい。然るに今の如く年々に人間が弱くあつて、其末チヤケに一寸坊主となるようでは、實に〲心細ひ限りで何んとも申されんように悲しひです。然らば先づ其豫防法が肝心であるが、其の豫防の法方は何如にしたら宜しひかと云ふに、第一に、人間を產み出す所ろの人が丈夫でなくては成らんと思ふです。此の大元が若しも弱ければ、之から出て來る所ろの人間は、又是非とも弱くなくては成らん、丁度地面が惡るければ作物も惡る樣で、其母たる所ろの御婦人方が弱くつては、何うしても後來の人間を強くするとは出來んです。昔し安田義遠は、剛の悴を產ませようとて、わざ〲、キリヨウは惡るひが力は山を拔くと云ふ板額に掛想したとの事、どうか今の英雄方にも皆な此の樣な覺悟を持つて戴きたひです。薩摩の隼人や、長州の才子方は、日本八十餘州中の飛拔たる人種で、其亦た人種中より飛拔け玉ふたる今の諸豪傑は、どうかな其の御種を子孫末代に遺し、願はくは千代萬代までも、剛強英才の大問屋元となられまするよう、日夜に密かに懇願して居りますが、之には何卒、丈夫なる細君を娶られて、常も丈夫なる鷹の子を產み出さるゝように致さんければ、如何に心配して隱で懇願しましても、ダメデス。然るに、其の細君のキヤシヤなるとは失敬乍ら藝妓の如く、其タヨハキとは憚り乍ら京人形の如きでは、中々諸豪傑の種を永遠に遺すとは出來んです。然し之は先づ別の事と致して、何うしても、丈夫なる女が欲しひです、強い所ろの佳人が欲しひです、若し御婦人方にして

强からば、其子孫は悉く丈夫で、即ち日本人民は悉く强兵となります。張飛は一人で百萬の兵を退けたと申して、凡そ人間は、數の多きが故に尊とからず、力あるを以て尊しとすることゆへ、どうか日本人民が皆な丈夫で强くて張飛の樣な勇士になつて欲しひとです。左れば、一寸坊主と成るが嫌なれば、先づ女を丈夫にせよ。富國强兵にしたければ、先づ女を强くせよ。羅士亞英吉利の兵隊を、太平洋日本海上で叱つて退けたくば、先づ婦人方を張飛のお母さんのやうにせよ。薩長の諸豪傑が若し其權力を永く保ちたくば、どうか藝妓然京人形平たる細君を持つこと勿れ。願くは日本の婦女子惣躰が、小町のように立派であつて、そうして板額の樣に强く、衣通姬のように美しくて、而して巴御前の樣に强く、心は愛に富んで力コブも高く、貞節の操も固くて身躰も亦た能く締つて欲しひ。ナポレヲンは敵國に攻入るとき先づ其國の女を見た、これは女が弱ければ其國の兵隊が弱いゆへです。どうか日本人民が皆な他國より恐れらるゝほどに强く成りたい、夫には即ち丈夫なる女が欲しひです。

〇百人一首一口話　（其八）

鈴木弘恭述
八木鶴二錄

小野小町

花の色はうつりにけりないたづらに我身世にふるながめせしまに。

此の歌は古今集にのせたり。世にながらふる身は。もの思ひが多くて。歎息しつゝ月日過す間に春の花盛りもすぎしさまをいへる也〇うつりは。うつろいと同言也。人の轉居するをもうつらふといふなり。花の色のうつらふは。盛りより衰枯の方へ移りゆくと也〇いたづらは。俗ムダ也〇よにふるは。世に經ると雨のふるとを兼ていふ也〇ながめは。淋雨と長見を兼ていふ也。心にもの思ひのある時。空を仰ぎてゐるを。長見といふ也〇一首の意は花の色はうつろひてわろくなつてしまつたナア。ムダに我が日數へつゝ淋雨の爲てゐつた間にといひて。我が紅顏も衰へてしまつたナア。ムダに我身は經世のとにつきて。我が心に任せぬを歎息してある間にといひて。移りやすき世の無常を歎げる也〇語格は。一段切れの歌なれども二の句のにけりなにて切れて。さて五の句のながめせしまにといふより又上へうちかへして花の色をと續く格であります。

●正誤。前回（本誌第百拾號）喜撰法師の條。我いほの註に人の入りて月日を経る所なればゝ云とある二十七字は全く錯誤に付取り消す。右はいほりといふはいほいりの約まり也といはれしとを誤聞したのでありました。此段讀者諸君に敬謝す。

小說

○小說神髓

蘇格氏著ケチルチルス（第十五回）

早や消入らんとするラブサート夫人を召び返してゼチは甲斐〴〵しく之を慰さめ御心持は何如に候とも決して〳〵御案じ遊ばさる可らず先刻小間物屋より買得たる氣欝散ハ即ハち此の毒藥の消し藥りのよし小間物うりと見えたるハ實ハトレッセリアン殿の御使ひあるよし左らば之によりて自然に其毒を解き御躰だに恙がなかるべければ御心を確かにしてよなど勵まし申す、神經の作用は恐ろしきものにて元と自身と消行かんとしたる夫人も此言を聞て頓かに引返さるゼチは之を見て大に喜こび扨ても右様の所ろにハ一刻も安んじ居玉ふべきにあらず彼のトレッセリアン殿の御使ひは何處までも御伴いたし申すべしとなれば何卒早う出立ちて此の狼狽の穴を逃れ玉へと云ふ、夫人も既に心を決し棄つる命ちは更らに惜しゝとは思ハず只だ侯に今一度御目にかゝりて此等の事柄を精しう申上げ終りに至るまで節義を守れりと申上たし之れより父の許に歸らんと尤とも易きに似たれど斯くては侯に背くに同じ何如ように困難すとも之れよりケチルチルス城へ參り申さんとなり、侯より兼て仰せ置かれたる事もあれど此期に臨んでは最早いたし方なし例令ひ其の御命に背きて押付け參らんとも若し事情を精しう申上なば定めし御怒りもなかるべしなど打語らひ其夜半ばごろ密かに彼の家を出し參らす、ゼチは之を送つて裏口に至り淚だを揮つて其の健全を祈り終身御傍ばに在つて介抱し申上んと思ひたるを今ま此の尤も危急の場合となりて只だ獨り出で立たせ參らするは抑も何たる憾みにか候半されど妾わは後とに遺り何如にともして御出奔を隱くし申し成るべく追手の出で向うを延引いたさすべし路中萬事に御用心ありて箇弱き御躰だを痛め玉ふな等と申す、彼のエーランドは既でに小馬一匹を用意して裏口の門傍に待つて在り之を見て早や御乘候へと云ふ別離の恨み千萬無量サラバの一語もやう〳〵に覺束なくも馬上に投ず見送るゼチ、馬追ふ奴左らばアナタを、承知せり、半語早々、夜深くして既でに其の影を沒す。

エーランドは馬を追ひて行くとき傍ハらに一人の若者鞍を置いて人待がほしたるを見たり之れ屈强と近づきつゝ扨て〳〵待たしたり早や乘り申さんと云ふに若者不審相につく〴〵と顏を見てチィ夫では合圖が違ふでは無いか、左樣〳〵全く忘

れたり何に左樣〱ツイ急ぐから忘れて仕舞ふた眞に御苦勞であつたと無主意の禮を述べ乍ら夫人を之に載せかへて其身は前の小馬に打乘りたけ〲しくも難なく馬を盜み一鞭又一鞭夫人のあとより乘かけたり。

時に後より大聲にて呼び來り惡つくき馬盜びと夫れ返へせ返へせ〱とわめき乍ら逸足出して追かけ來るエーランドはとんど困うじ乍ら能く其聲を聞けば昨日宿屋にて見掛けたる商人のやうなり、チヽ汝ちは昨日宿屋で會つた仲間では無いか己れは是非とも次の驛まで早う參らねば成らぬ何卒そこ迄之を貸して呉れ其處に行つたら馬もあらう左らば十分の金を附けて此の馬は遣して置く助けると思ふて貸して呉れと辨じながらも少つとも休まず尚ほ更ら鞭を擧げて驅出せり左れど彼の追手も亦たいよ〱走せ來り、どう〱して其樣なとでは中々貸されぬ己れも嫁を連て來るので今早や其時刻に成り嫁御寮はチヤント用意して出掛たところだ夫を取られては何樣しようぞ次の驛で置て行くなんどと云つても夫は當てに成るものか返せ戻せと召び掛けたり、エーランドいよ〱困却し乍らいや〱決してウソは吐かん己れの荷物は皆な宿屋に置てあるでは無いか疑れしくばアレを皆んな取つても宜ろしひ是非一刻も早く行かねば成らぬから助けると思つて貸して呉れハイヨ〱とアブミを蹴つて驅けて行く、追手も今まは致し方なく又たやゝ安んずる所のありての慾か其儘に之を見棄てゝ又た追はざりけり。

扨てもやうやく此の妨たげを逃れても尚ほ決して油斷なく驅け行くうち夜は追々と生命をちゞめて早や朝日東天に顔を出しぬ此時風と後方を見るに馬一騎空を飛んで馳せ來る遥かに之を窺がへば圖らざりき此れバーチーなり。

佳傳

○米國大統領ガーフヰルドの母

身を貧賤の中より起して大統領の位に即き人位の頂點に達し名譽の星華を放ちしガーフヰルド公が母なるエリザ、ガーフヰルドの來歷を尋ぬるにヒーユゲノーツの遠孫にして其父も亦これ累代の說教者なりと云ふ然れば其性質に顯はるゝ能力と忍耐と高き望と勇しき氣慨とは其血統を通貫せる遺傳線にして何故に彼の貧困なる寡婦にして彼の拔群の英俊を生ぜしめしやと云ふ疑問を解くの鍵なり良人ガーフヰルドは幼時よりの遊び供達なりしと云ふ嫁するの時其家僅かに一丈八尺と二丈

の差小屋にして只一室を有すのみ其貧困思ふべし夫ガーフ井ルドも亦善良ある人にして日夜勤勞忘らざりしが第四の小兒の生れし時不幸にも亡き人となりければ一家の困難は悉く母が頭上に集り來り全家の運命僅に母が二本の手にて支らる而して無情の債鬼は獅の如く吠て畑を食み又家を呑めり此時ゐ當りて能く働き能く忍び漸く余喘を止むこれ凡婦の能くする所にあらず而てエリザ、ガーフ井ルドは此難に當りて尚餘力を養ひ規則立て聖書を教へ專ら智德の練磨に心を用ひ其子女の生涯に文を織り色を加へんと試みられ而して能く其果を得しぞ寔に絶代の賢女と云まくのみ。

余はエリザ、ガーフ井ルドの傳を讀み一週に四章の聖書を讀み其義を解き其意を示して子女を教育するの懇切なる事及び自ら卒先して學校を建設し隣友の子女を教育する事に心を用ひられし事を見て非常に感ずる所あり而して其一家の和樂せる有樣甘味愛すべき有るは殊に感ずる所なり。

其長男ミシガンに赴て或る力役に從事し尚其餘暇に大工の業をなして幾分の給料を取り悉く母に捧て母の用に供し身は破たる衣を纏ひ跣足にて甘じ外形の醜を以て人に嘲るゝも心中の快樂は王侯貴人の知ざる所に在り又六ケ月の力役を積て其給料を母に捧げ母を容るの家を求たり然は其餘の兄弟も皆己を忘れ母を思ひ母の爲に勞役して己か爲に働かす母を第一として己を第二とす斯く其母を思ひ其母を愛する所以の者は思に母其價を有すればなるべし何となれば愛はエレキの如く二者相合て互に發す

るの氣なり况や心なき小兒を撫育して斯の如に至らしめし事は母の力なりと云ば母の愛の更に大なるを見る彼の末子ガーフヰルドが大學より教會に移り次で兵役の中に加はり一千八百八十年大統領の榮職に就き一千八百八十一年の三月四日就職の式を行ふとき式終りて直ちに其母に接吻して之を謝せしと云ふ事これガーフヰルドが自然の情母に養はれし情にして米全土の稱して措かざる所極て輕微なる一つの出來事なりと雖も此一小事の中に於ても何此母にして此子あるを見るに足る。

寄書

○オドラム夫人の小傳　M. O.

英語國人と日本國民との交際ハ我國に於ける英語の進歩と共に度を進めて親密の佳境に入るや既往の事實に照して明なり然りと雖ども此進路に頑然として横はり以て其障害をなす所の者あり盖し英語國人の心中に隱見出沒する日本國民に對する未開人てふ感情之れなり此感情ハ所謂和魂の活動を促し來て大に交際に關渉すと雖ども試に我輩日本人は朝鮮支那に在る「アダム、エバ」の子孫に向て如何なる感情を抱持するかを自反し來る時は敢て彼儕に向て和魂の劍舞を示すにも及ぶまじきあり固より彼儕と雖ども其道德上の智識よりハ其感情の不可なるを知る唯其智識の微弱なる遂に其感情の强猛なるを制御し能はざるのみ余固より英語國民の日本に在留する者の多數を知らず然りと雖ども其少數中に就て彼の微弱なる智識を以て能く彼の强猛なる感情を制御して以て人類平等の交際を彼儕が感想する未開人なる日本國民に向て保つものありやを需む而してオドラム夫人に於て之れを得たり。

夫人ハ千八百八十七年即ち明治廿年三月を以て我國に渡來す良人オドラム君「エム、エー」ハ直に東洋英和學校の教頭たり由て居を其近傍にトしオドラム氏を補けて家政を管理し來賓に接し學齡前後の兒子三人を教養するの煩劇に處すと雖ども某々貴婦人令孃等を家に招て會話を教授し眞理を傳ふ而して一週二回下谷、牛込、兩教會の編物會に出席し懇切學生の爲めに盡して至らざる無し夜間ハ塾生を其室に集めて熱心聖書を講じて倦まず毎夕一時乃至三十分間を増して散會す塾生の講室に入り來るを見れば忙しく起て纎手倚子を支へて之れに席を與へ去時ハ必ず握手す毎人皆然り或ハ曰く「夫人の握手ハ痛し然ども其眞實や甘し」と實に然り盖し昨年「リバイバル」

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

前後生徒の道を信ずるに至りし者百を以て數ふ而して其過半は夫人の教導する所たり夫人懐妊產月に近し偶々塾中急劇なる腦症を煩へるものあり枕頭數種の美食を列す蓋し書生の夢視だに能はざる所ありとす由て怪て之れを問へばオドラム夫人の好意ありと云ふ余病める者の爲めに雪を庭前に氷袋に收め思はず首を擧ぐれば樓上より玻窓を隔て丶夫人の窺ふあり余を見て莞爾として揖す而して言はずと雖ども其心中早く既に「ハウ、アール、ミストル〇〇、イズ、ヒー、ベター」と問はんとするの優情あるを察知するに足る蓋し腹痛屢分娩の近に在るを報し來れるの時なり既にして好姿帷帳の裡に沒し去る回想すれば之れ余が夫人に永訣の曉なりしとは豈痛嘆の至りならずや後暫くにして男子を擧ぐ塾生中曾て夫人の教導に由て主の名を呼に至りし者擧て其安產あらんことを祈て得ず產後幾何もなくして肋膜炎に襲はれ續て肺患を伴ふ苦痛分擔するを得可くんば誰か之を辭せん故に或は公なる祈禱會となり又密室朝夕の禱告となる皆夫人の令德に由らずんばあらず夫人此煩悶中に在りと雖ども神を愛するの念毫厘も減ぜず常に曰く誠に實にエホバは我が首をもたげ給ふものなり(詩三の三)と以て自ら慰む一日塾生中にて曾て夫人の「バイブル、クラス」に列なれる者の一二に逢はんことを要む由て某々等床邊に訪ふて夫人の爲に祈る夫人曰く「神の攝理の中に在て余は實に安心なり」と而て音聲斷續聞くに痛を覺へしめしと云ふ就眠の前日三人の兒子を延て近く枕邊に侍せしめ遺言して曰く「兒曹神と父とに仕事して永く忠孝なれ」と語氣纔に辨するを得しのみなりとかや爾後復た言ふ能はず其翌日午前十一時頃享年三十五歲オドラム氏に配してより十年にして眠が如く逝く實に千八百八十八年五月九日(水曜日)なり翌日午後四時葬送の式を東洋英和學校講堂に施行す會葬者無慮數百人插花を贈り來るもの六基花環を贈るもの其數を知らず司會者ドクトル、イビー夫人の略歷を述べ終て後青山に葬り去日曜(十三日)再び夫人の爲めに仝所に集會を開きドクトル、カックラン詩三の三に云る「エホバは我首をもたげ給ふものあり」との題にて說教す蓋し夫人が病床に斷へず誦する所なり。

夫人は同胞八人にして皆樂しき家族中に生長す十八才にして日曜學校の教師となり廿才の時青年婦人傳道會社の幹事に撰まる而して禁酒會の會員として盡力家の聞へ大に高しオドラム氏が傳道會社より在日本東洋英和學校の「プリンシパル」たることを囑托せらる丶や直に之れを夫人に議る即はち大に之れ

を賛す曰く「神の爲めに遠く日本に航す故鄕又何かあらん」と是に於て禁酒會は夫人の功勞に酬ゆるに永代會員の榮名を以てす蓋し夫人はキリストの前にはマリヤたり良人よはサラたり又親に孝に子に慈なる人なり然るに無殘や夫の「コーセット」なる魔鬼は淑德ある此夫人を擒にして此慘狀に陷らしめたりと云ふ誠に忌懼す可き哉。

●宮廷錄事

●行啓　皇后宮陛下は去十七日午前十時御出門にて上野公園内の美術展覽會へ行啓各陳列品を御巡覽遊ばされたりと云ふ。

新報

○在布哇日本人禁酒會

此頃安藤領事より婦人矯風會へ向け送り越されたる答書に添へて彼地の禁酒會趣意書を送られたれば左に掲ぐ、抑も移住民は兎角飮酒不道德に走り易きものなるに其開闢に於て初めより斯る善良の施政あらんは眞に向後幾百年の爲に尤も大効能のあるべきものと慶賀の至なり吾人は北海道移住民奥羽新開民等の間だにも亦た此の良風の行われんとを祈ると共に日本全國民の速かに禁酒世界の人民となるに至らんとを熱望するもの也。

在布哇日本人禁酒會趣意書

世の中に毒物數多ある内其甚しきハ酒に若く者なく而之を除くに最難きも亦酒に若く者なし何故に酒毒を以て最甚しとするか其害獨り一身の生命を敗るゝ不止して妻子眷族へ申すに不及飮酒家の近く處は知ると不知と多少其災を與へさるなきか故なり我邦人は支那人の阿片を喫するを見て氣の毒千萬なる想を懷けとも阿片を飮みて他人と喧嘩口論に及ひ又は毆打負傷を行ひたる例を不聞左れは阿片の毒ハ詰り酒より幾許か輕微なりとも可申か又何故に之を除く最難きやと申すに阿片は公然毒物の名前あるか故に他人の面前又は三度の食事等に飮用する事なきも酒は人間萬事に付け目出度しとして飮み不幸として飮み朝飮み晝飮み夕に飮み時として夜半眠られぬとて飮む者往々ありて人又之を格別怪まされは本人は二日醉又は喧嘩の翌日に後悔する位な事にて半日も程經る時は又再飮始る如き世の中の風俗なれは之を禁止するは實に此上もなき難事と可申なり中には酒ハ百藥の長憂を掃ふ玉箒など唱へ加減さへすれは何の害にも不成など申蟹澤山にあれとも其加減の六ヶ敷きは我々十分に覺の有る事にて加減々々が何時か不加減となるは世の中に其例餘り澤山過きて數ふるにも不及程なり又眞實に十分加減の出來る人もありて程善く飮むか故に其身の藥となるは勿論妻子眷族他人等へも迷惑を不加向も可有之此連中には斷然禁酒するは不用なりと申張る者あり此論一應は尤の樣なれとも其甚尤ならさる次第は凡り此世の中よ人間と生れ出たる者己れ一人にて事の可濟筈なければは必すや妻を娶るへし妻あれは子あるへし妻子あれは世間の附合あるへし然る以上は此妻子と世間に對し善は勸め惡は懲して己れの爲より引續き他人の爲を謀るは人間たる者の道即ち堅く云ふ時は義務とも云ふなるへし此勸善懲惡を以て人間の義務とする時は飮酒が一身の害耳ならす妻子にも世間にも惡事たりと知らは身の爲人の爲辛防を極めて禁せさる可らさるなり況や加減の出來る人物に於てをや此辛防一たび行はれて酒飮連中擧て禁酒する時は人々壯健にして各其業を務め夫より次第に富國强兵之基とも相成り我日本をして世界萬國にも恥しからさる國柄と可爲や疑なし即ち此等を指して事小と雖も大に譬ふ可きとは可申ならん新川に下戶の建たる倉もなしなど法外千萬なる俗言あれども試に思へ此倉の爲に幾萬人の生靈か貴重なる生命を抛ち家產を傾け妻子を路頭に迷はせ世間に害毒を流したるや不可知放蕩無賴の書生連中か妄に愛國と呼び盡忠と唱ふるよりも一文字を不知一匹夫か喉三寸の愉快を辛防して禁酒する方遙に愛國之道に協ふと可申此等の道理より我々には茲に日本人禁酒會を創立し其利益を一身に止めすして之を他人に及ほし以て愛國の衷情を遂せんとする者なれは有志之人々には何卒猶豫なく加入あらん事を冀望するなり。

○高等女學校商議委員　宮中顧問官子爵山尾庸三氏は東京高等女學校商議委員を囑托せられ醫科大學教授三宅秀高等師範學校教諭高嶺秀夫の兩氏は同委員を命ぜられたり。

○留學　埼玉縣下北葛飾郡牛岡村平民竹内仁右衞門氏の姉靜江氏(廿六年三月)は紡織染研修の爲め本月より滿三ヶ年間佛國へ留學の許可を得先頃便船にて出發されしとのと。

○女子教育奬勵會　同會は去十七日坂本町の銀行集會所に於て開會したり當日出席者は主唱者なる土方宮内大臣、外山正一、澁澤榮一の諸氏都合廿五名にて學校設立并に同會將來維持の爲め金五萬圓を廣く有志の人より募集するとの相談を遂げて散會したりと云ふ。

○豐田英雄子　同子は當今伊國羅馬日本公使館内に恙がなく消光のよし此頃巖本への來狀の末に

(中略)將又豫て御盡力有之婦人禁酒會追々盛なる趣新誌にて每度閱覽仕候米國は殊に盛んなる趣彼地在留の友人より每度申來り候割合には歐洲には左迄に熱心に無之歟と愚考候(下略)

○結婚　高等女學校々長矢田部良吉君は同校生徒柳谷孃と結婚あり又た末松謙澄

君は伊藤博文君の令孃と目出度御結束すでに整ひ近々に入輿之れあるよし也。

○假名の會　同會にては本年の惣集會に於て女組を新設するとになりたるに付ては女學校をも新設する由にて故吉原重俊近藤眞琴兩氏の未亡人へ事務の擔任を依賴せんと目下夫々協議中なりと云ふ。

○京都高等女學校　同校は新たに割烹科を置き女教師エステール氏をして專ぱら洋食の調理法を敎授し去る十二日には同府の朝野紳士を招き生徒の調理品を以て晩餐を饗したりとぞ。

○浪華諸學校　大坂東區道修町五丁目の同學校は美術奬勵の爲め此度蒔繪及彫刻の修業志願者には無月謝にて敎授するとぞ。

○靜岡縣婦人會　今回靜岡の有志の諸婦人には靜岡縣婦人會なるものを組織せんとて去月卅日關口縣知事の邸に會して其相談會を開かれしと發起人は關口、蜂屋、杉山、井上夫人其他十六人なりと云ふ。

○岐阜婦人協會　濃州岐阜鍛冶屋町の濃南私校々主笹野支乘氏の妻きやう子が發起となり學校教育の外に於て婦人の智識を研磨し其德操を發生するを目的となし今回岐阜婦人協會なる者を設けんとて同志の婦人を勸誘し既に多くの贊成もあり不日開會するならんとのと。

○熊本幼稚園　同園にては創立後一周年を經たればとて本月一日午後一時より滿集會を開かれ知事書記官區長等臨席し殊に婦人の參觀者多く第一唱歌、次に遊戲ありて後賞品を授與され愛らしき幼兒の皆々いと嬉れしげに歸り行しとぞ又同役は園内にて幻燈會を開かれ保姆志村高子一々說明され參觀の婦人方は頗る感覺を起せしと云ふ。

○婦人奬勵會　勢州津西與四十二番地に小林某女の發起にて婦人奬勵何なるものを新設し毎火曜土曜の兩日に英語、地理、毛糸編物等を敎授する由。

○婦人懇會　佐賀の婦人懇會は去る二日第三會の集會を催ふせし由。

外報

○工女市　紐育の工女市と云へるもの此頃開かれたるに大統領の夫人クレブランド氏は其寫眞三百枚に一々其の名を手記したるを送られたるが人々爭ふ如くに之を買ひ求めたりとぞ而して此市にて有名なりしは日本の茶店にて店には恐多くもミカドの服を着たる一人侍べりて人々に出會へりとぞ但し此市はフェアと申し矢張り當方の慈善市の類なり。

○グランド夫人　故大統領グランド氏の夫人は前夫の遺書によりて凡そ四十萬弗の入金を得られたるが尚多く收入の見込あるよし也。

○アルコット孃死す　米國當世の女小說家として著名なる彼のアルコット孃は果敢なくも死去せらる。

○結婚議案　曾て英國國會に出でたる亡妻の姉妹に結婚するとを法律上正當と認定する議案は本日エドワード、ヒーチージ氏の習度ありしより一時は議論沸くが如くなりしが遂に百八十二票に對する二百三十九票の多數にて通過したりと四月十八日倫敦通信に見る(五月二十日朝野新聞)

小供談

○印度物語第二、豚と聖人

或る時十二匹の豚川を渡らんとし其中の重立ちたる者いへるは我等は十二連あり向ひの岸につかば仲間の中に欠けなき樣好く〳〵數を改めてたゞすべしと皆渡り終りければ首のもの數を改め不審氣に同勢十二あるに數へし數は十一ありといひければ外の豚も顔を見合せ仲間の中よて溺れし者あるならんと互に駭きあへり傍に之を見聞して笑ひ居れる一人の聖人あり豚は進み寄り先生は何事を笑ひ給ふやと詰り問ひけるに聖人答て何事にも己を先よするは世の常なるに己が身を忘れて數に入れざるは開闢以來汝等を以て始めとすと云へり。

同　第三、刀と髮剃

髮剃刀に向ひ人は如何あれば御身の事をほめはやし吾身の事を思はぬやとつぶやきけるに刀は誇り顔にて御身の業は上邊のみいかで我業の深きにしかんやと言はんとせしを髮剃打ち消してされば其深きが故に害も又大なるにあらずやと詰りけり時に髮剃の一味たる砥石傍より口をいだしさしとめて言ひけるは世に英雄とて持て囃やさるゝ者は多くは害惡に長けたる者に非ずや知らずや名譽は害惡の多きに由るものあるぞ。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

東京婦人矯風雑誌第二號

明治二十一年五月十九日發兌

●論說　婦人の品位を開進するを論ず（浅井さく女）○日本同胞諸兄に望む（佐々城登代壽女）
●雜錄　西洋の諺○煙草禁止法○萬國婦人大會議○新聞の腐敗○新聞雜誌の德義○横須賀通信
●會報　酒類の通商廢止の請願書○世界婦人禁酒會書記スミス夫人の書翰○米國シカゴ矯風院の圖○各地矯風會の摸樣○在布哇駐在安藤總領事の書翰
●寄書　矯風會雜誌の發行を祝す（すがはら）
●雜報　禁酒旅籠屋其他數件

麹町區飯田町五丁目三十番地
東京婦人矯風會

當塾女子部は六月一日より更に毛糸編物幷に作花の二科を增加し「アンクスター」孃毎日出席懇切叮嚀に敎授す

東京　本所松坂町　回向院裏
私立江東義塾

婦人教育雜誌
每月一回刊行

特別寄書家東京諸大家廿五名
五月廿一日初號發兌一册定價前金五錢
郵稅壹錢

群馬縣下前橋南曲輪町九十三番地
上毛婦人教育會本部

田口卯吉著　中根淑先生跋
日本開化小史
右は日本開闢以來戊辰の變に至る迄政治上社會上及人心上に顯はれたる事件を記載したるものあり
全六册　正價九十錢　郵稅三十錢

田口卯吉著
支那開化小史
島田三郎、小池靖一、末廣重恭、三君批評
末廣重恭君、中根淑先生　跋
右は支那開闢の始より明末に至るまで社會の變遷を記せしものなり請ふ江湖の諸彥陸續購讀あらんとを
合本全一册　正價九十錢　郵稅卅六錢

●發兌　東京々橋區彌左衛門町　經濟雜誌社
●賣捌　東京小林、丸善、博聞社、集成社、中央堂●大坂梅原、丸屋●京都大黒屋●横濱丸屋

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

遞信省認可

當邸五十才前後の下男一人雇ひ入れ度仕事は水撒草秡位月給壹圓但し働きによりて增給するとあるべし

赤坂青山 池田家扶

交詢案內

●雇ひたき方（甲）

七	保姆地方高等小學校に於て幼稚科の保姆を雇ひたきものあり月給は十三四圓まで基督信徒の方を要すとなり
八	家婢卅年前後にて篤實なるものにて四才五才計の女子二人の世話をなし少々裁縫の事を心得洗濯等を致す寡婦を望む最も月給は三圓位を與ふ

●雇はれたき方（乙）

十	縫師年齡三十歲位のものにて和洋服裁縫出敎授に雇はれたきものあり給料は相談上にて宜ろし
十一	召使學資に乏ばしく依つて小間使ひとなり餘暇を以て敎授を願ひたき十八九才のものあり
十二	敎師或師範學校にて普通學三年餘修業せしものにて學校に七八圓位にて通勤致したく又は他の御內にて入込み敎授するならば六圓位にて雇はれたし可成は東京横濱の中を望む
十三	敎師栃木縣女子師範學校の卒業生にて何處かの學校或は他の御內にても敎授に雇はれたきものあり可成くは麴町か駿河台邊を願ふ
十四	洋行身元慥なる十八歲位のものにて英漢學も可なり出來るものにて學問研究の爲め貴婦人の歐米に航せらるゝ御方の小間使となりて隨行を願ふ

●喜びのめぐみ

一	乙第五號は本郷某女學校と相談まとまりたり
二	乙第四號は深川冬木町の某と相談纏りたり
三	乙第三號は或方にて相談調ひし由申し越されたり
四	甲第四號は深川冬木町の某と相談調ひたり

發兌

四月。七日 十四日 廿一日 廿八日
五月。五日 十二日 十九日 廿六日
六月。二日 九日 十六日 廿三日 三十日
七月。七日 十四日 廿一日 廿八日

定價

一册。五錢 郵税。一錢 （但府內無郵税）
十册。四十八錢郵税。十錢 （同前）
半年分 一圓十七錢 府外は 一圓四十三錢
一年分 二圓卅四錢 府外は 二圓八十六錢

廣告

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を掲ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を載する毎に右雜誌十部の注文を要し以上半頁分毎に十部增の割合と定む

一行 一回 （廿七字詰） 前金拾錢
同 三回以上 一割引
同 六回以上 二割引
十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絶す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町畿々堂○同芝西久保櫻川町萬春堂○同神田區雉子町團々社支店○同神田區佐柄木町東海堂○同日本橋區新葭町巨明堂○同京橋區木挽町壹丁目萬字堂○同本郷區元富士町盛春堂○同本郷區春木町二丁目解明堂○同本郷四丁目文春堂○横濱住吉町角田晃貞○同太田町三丁目萬字堂○同日月堂○同本町六丁目日の出屋○京都四條通小橋西へ入淨集光堂○同三條通東洞院西へ入クリスチアンボード○大坂備後町四丁目岡島支店○仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部○宮城縣仙臺大町木村文助○尾張國名古屋本町石版社○出雲國松江新町盛進堂○廣島縣大手町一丁目早速社○長崎酒屋町虎與號○江州彦根西內大工町新々堂○相州小田原緑町石壽堂○上州高崎田町煥乎堂○土佐國高知本町三丁目樂園堂○熊本文明堂

明治二十一年五月二十四日印刷
明治二十一年五月二十六日出版

發行所 東京京橋區日吉町八番地 女學雜誌社

編輯兼發行人 東京京橋區日吉町八番地寄留 巖本善治

印刷 東京芝區源助町十一番地寄留 森田豐

WOMAN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.
Edited and published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 8B HIYOSHICHŌ, SHINBASHI, Tôkyô, Japan.

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY